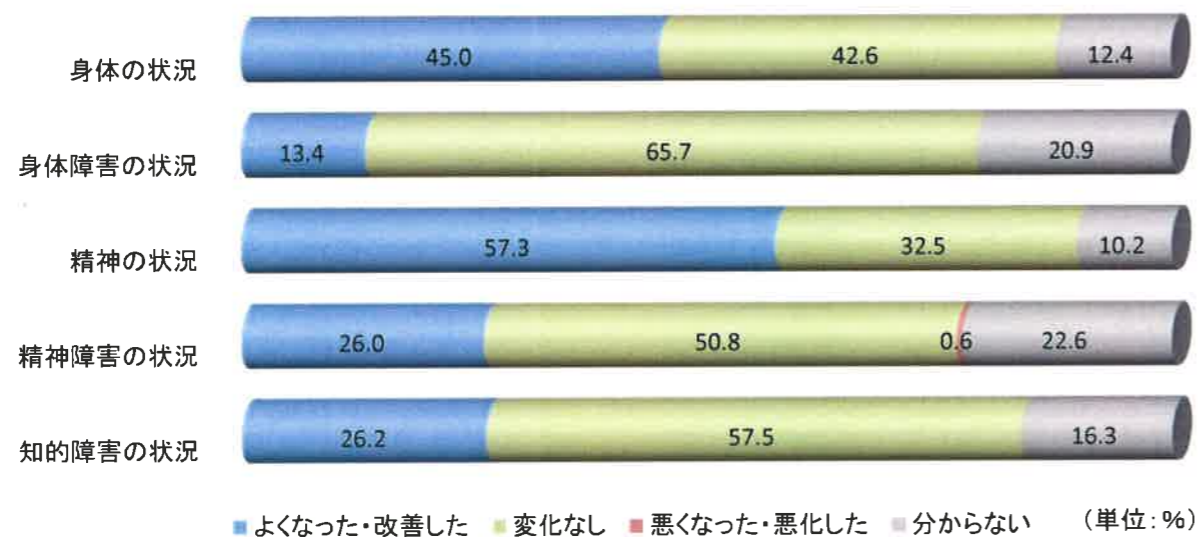


近年、福祉分野において、農業・園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーション効果や、共同作業による社会参加促進効果等が改めて評価されています。

○農業活動の効果について、障害者就労支援事業所を対象としたアンケート調査を実施した結果、45.0%が身体が、57.3%が精神の状況がよくなった・改善したと回答しています。



出典:「農と福祉の連携についての調査研究報告」(特定非営利活動法人日本セルフセンター)  
注:障害者就労支援事業所を対象としたアンケート調査(平成25年度実施 回収数:832)

○市民農園等での農作業の効果について、高齢者を対象にアンケート調査を実施した結果、農作業をしている者は農作業をしていない者に比べ、生きがい(喜びや楽しみ)を感じている人が多いという結果が得られました。



出典:「農作業と健康についてのエビデンス把握手法等調査報告書」(平成24年度農林水産省委託調査)  
注:全国の60~69歳の男女を対象。回収数:農作業実践者500人、非実践者500人。

農業に従事している人を「百姓(百匠)」と呼ぶ場合があります。「姓」には広い言葉で「仕事、職業」の意味があります。このことから、百姓とは百の仕事ができる人という意味で、農業に従事する人を尊敬した表現という解釈がされています。

農業者の視点で農作業の内容をみると耕起、種まき、施肥、生育管理病害虫防除、除草、収穫、出荷調整など、おおよそ8つの作業に分類され、これらの作業をこなす**農業者は農作物を育てる『匠』**といえます。

しかし、種まき一つをとってみても、①鉢を準備 ②土を準備 ③鉢に土を入れる ④種をまく ⑤水をやるといった細かな作業が積み上がって成り立っています。

障害特性を活かした農作業の実施

- ◆ 農業は作業の種類が多く、作業の内容も異なることから、障害者一人ですべての農作業をするのは困難。
- ◆ しかし、農作業を切り分け、複数の障害者が一つのチームとなって、能力に応じてそれぞれが得意な作業を行うことで農作業も可能となります。
- ◆ 更に、農作業をマニュアル化したり、農作業・農器具を工夫することで、障害者ができる農作業の範囲は拡大します。